



MON Nara 通信



Numéro 10

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

AOÛT 2021 8月

これからの催しご案内

第 148 回フランス・アラカルト 「アルザス、仏独の狭間に輝く特異な地域」

前回、バティスト・レタヨさんからヴァンデ地方についてお話いただきましたが、今回のフランス・アラカルトは、若き日にストラスブールに 2 年間留学され、その後も何度か訪れているという会員の濱恵介さんから、思い出話をまじえながら、アルザス地方の歴史と文化について語っていただきます。

★日時:10月9日(土)15:00~16:45 ★場所:生駒市セイセイビル 4 階 401 会議室

★講師:濱恵介 ★参加費:会員 500 円、一般 1000 円。★参加申込:sugitani@kcn.jp TEL 090-6322-0672(杉谷)

★講師の濱恵介さんからのメッセージ:アルザスはフランス北東端に位置し、ライン川をはさんでドイツと接しています。様々な民族が移り住み、多くの戦乱もあったようです。中世以降 17 世紀半ばまでドイツ文化圏とほぼ重なる神聖ローマ帝国の一部でした。三十年戦争(1618~48)の結果、フランス王国がアルザスの大部分を獲得し、フランス化が始まります。しかし、フランス語は公文書や学校で学ぶ言語にとどまったらしく、住民が日常用いる言葉はドイツ語の方言でした。1871 年、第二帝政のフランスは新興国プロイセンとの戦争に敗れ、アルザスを失います。それから第一次世界大戦が終わるまで約半世紀の間、ドイツ帝国領となりドイツ流の近代化が進められ、公用語は標準ドイツ語でした。1919 年のヴェルサイユ条約でフランスに復帰しますが、第二次世界大戦の際はナチスドイツの占領を受けています。



Strasbourg/La Petite France の濱氏(2018)



Riquewihir のスケッチ(1972)

このようにアルザスは、地政学的な位置と土地の豊かさのゆえにドイツとフランスがたびたび領有権を争い、そのつど翻弄され犠牲となったのです。厳しかった歴史にもかかわらず、ヴォージュ山地を背景とする風景は穏やかで、都市や村落の景観は個性的で美しく、食文化は多様かつ豊かです。このため観光地としても高い人気を誇っています。アルザスの特色をひとことと言えば「フランスの一部でありながらドイツ的」となるでしょう。地域言語、地名、ワインの銘柄、郷土料理、伝統建築いずれを取ってもドイツ文化が色濃く反映しています。もちろんフランス文化は既に深く浸透し、両者の融合と洗練によって今日のアルザス文化が花開いたと思われまます。

アルザスの首都はストラスブール。中心部全体がユネスコの世界文化遺産に登録されているほど華麗で歴史ある街です。ブリュッセルと並んで欧州議会が置かれ、独仏和解と欧州統合を象徴する都市とされています。地図の上でも、ストラスブールはヨーロッパの中央に位置しているかのように見えます。

残念ながら Alsace という公式な地域圏名は最近なくなりました。2016 年の政令により、ロレーヌ、シャンパーニュ・アルデンヌと一緒に、現在はグランテスト(Grand-Est)というより大きな地域圏の一部となっています。

私は 1971 年の秋から約 2 年間、給費留学生の身分でストラスブールに暮らしました。当時の思い出の数々は、私にとって人生の宝物です。初めての渡仏から今年ちょうど 50 年。今度のフランス・アラカルトでは、この特異な地域の歴史や地理、独特な文化などについて、私なりの理解と思い入れを語りたいと思います。



Kaysersberg の町並み(2018)

放送大学奈良学習センターとの共催公開講演会「ドゴールとその時代(1890-1970)」

第一次世界大戦から大統領退陣まで、激動の時代を生きた、軍人にして政治家のドゴール。彼の行動を跡づけながら、この時代(1914-70)のフランス史とヨーロッパ史に焦点を当てます。お話は、京都橘大学特任教授(奈良女子大学名誉教授)の渡辺和行氏。まだお席がありますので、ご興味のある方は下記にお申し込みください。

日時:2021年8月22日(日) 講演会:14:00~16:00(開場13:30)

会場:奈良公園バスターミナル・レクチャーホール

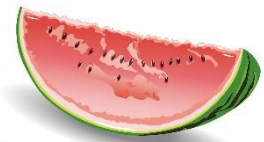
参加無料 参加申込先:メール sugitani@kcn.jp(杉谷) tel 090-6322-0672(杉谷) fax 0742-62-1741(三木)

秋の教養講座中止のお知らせ

Mon Nara 通信 4月号で予告しておりました11月の秋の教養講座は、諸般の事情により今回は中止することになりました。楽しみにされていた皆さまには申し訳ありませんでしたが、ご理解をよろしくお願いいたします。

◀2021 年度第 3 回理事会報告▶…事務局

☆日時:2021年7月15日(木)15:00~16:20。☆場所:野菜ダイニング「菜宴」。
 ☆出席者:三野、浅井、高松、菌田、三木、杉谷。☆議題 1. 2021 年度会費納入額・会員数。2. 前回理事会(5/20)後の活動:とくになし。3. 今後の行事:第57回日仏シネクラブ例会(7/25)の中止、放送大学との共催公開講演会「ドゴールとその時代」(8/22)、第148回フランス・アラカルト(10/9)、秋の教養講座(11/13)の中止。4. Mon Nara、Mon Nara 通信。5. その他:大安寺国際縁日への後援。6. 次回理事会:2021年9月16日(木)15:00~16:30「菜宴」。



後記 ☆Mon Nara 通信 8月号をお届けします。☆以前、フランス・アラカルトで、アルザス地方のお菓子についてのお話を伺い、お菓子をいただきながら皆さんと談笑したとき、参加者の半数以上がストラスブールに行ったことがあると知って驚いた記憶があります。コロナが明ければ、ストラスブールは一度は行ってみたい憧れの町。10月のフランス・アラカルトの濱さんのお話が今から楽しみです。☆このところ、庭園についての本を何冊か読んでいます。ヨーロッパでは16世紀に王侯貴族の間で庭園造りのブームが起こったそうですが、それはアメリカ大陸の発見や世界一周の結果、地上の楽園がもう地球上には存在しないと分かって、自分たちで作ら出そうとしたのがきっかけのようです。ペルシアの神話では、光の神が、天上の庭から追放した人間に、罪滅ぼしの一つとして庭造りの技を教え、人間は天上の庭に何とか近づけようと庭仕事に励んだといひます。また中国や日本の箱庭や盆栽は、大きな自然を小さな箱のなかに縮小して閉じ込めそれを愛でるというものです。それらを考えると、庭造りというのは、天上の庭や自然を手元に再現する試みであり、畏れ多くも造物主である神の真似事をしようとするものなかもしれません。コロナ禍で海外どころか国内旅行もなかなか行けない状況が続いていますが、わが家の猫の額の庭で、土いじりでもしようかとぼんやり考えているこの頃です。(杉)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 10月号は9月30日が原稿締切日です。
- ◆会員のみならず「Mon Nara」(2月、6月、10月発行)、または「Mon Nara 通信」(4月、8月、12月発行)に**チラシ同封を希望される方は**、1)内容がフランスに関わるもの、2)本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2021年8月 numéro 10

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司